

「地域のみなさんと医療を結ぶ。阿蘇立野病院のコミュニケーションマガジン」



たての日和 No.04

医療法人社団 順幸会
阿蘇立野病院 発行

TATENO BIYORI

GEAR CHANGE!

ギアチェンジ

復旧から復興へ!

裏山の治山工事が
着工されました!

被災箇所全体に
防護ネットが
張られる予定です!

現在はここまで
防護ネットが
張られています!



各部署よりのご連絡掲示板

ボランティア
Volunteer

西日本豪雨災害の ボランティア活動に 参加しました。

【看護師 内田陽香】

災害翌日、被災地へ到着すると、辺り一面が1mを超える土砂に埋もれており言葉を失いました。私は行方不明者の捜索及び道路や家屋の土砂を除去する作業を行いました。当時は気温が高く作業は難航しましたが、1ヶ月程でなんとか生活道路を確保することができました。



病院機能

- 一般外来 ● 救急外来
- 人工透析 17床 ● 通所リハビリ
- 入院 32床(地域包括24床、療養8床)
- 院内リハビリ(PT・OT・ST)
- 訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ
- 健診センター ● 自由診療

入院受け入れ可能項目

- レスビレーター管理(要相談) ● 気管切開
- 経管栄養(鼻腔栄養・胃ろう栄養)
- がん疼痛麻薬使用 ● 終末期看取り
- リハビリ PT・OT・ST がんリハ
- 認知症(要相談) ● 透析 ● 転院継続療養
- 当日入院・土日転院受け入れ相談・Key不在の方受け入れ

外来診療予定表

診療科		月	火	水	木	金	土
内科	午前	上村晋一	上村晋一 生野俊治	生野俊治	生野俊治	上村晋一 生野俊治	上村晋一
	午後	上村晋一	上村晋一 末藤美星 (不定期)	生野俊治 (不定期)	—	中島昌道	久留米大外科
代謝内科 *期間限定非常勤	午前	熊大代謝内科 (第2週or第3週)	—	熊大代謝内科 (第2週・第4週)	熊大代謝内科 (第1週)	—	—
	午後	熊大代謝内科 (第2週or第3週)	—	熊大代謝内科 (第2週・第4週)	熊大代謝内科 (第1週)	—	—
外科	午前	上村晋一 米満候宏	上村晋一	—	—	上村晋一	上村晋一
	午後	上村晋一 米満候宏	上村晋一	—	—	中島昌道	久留米大外科
整形外科	午前	松原暢三	—	—	—	松原暢三	—
	午後	松原暢三	—	—	松原暢三	松原暢三	—
泌尿器科	午前	—	—	—	中原王寿	—	—
	午後	—	—	中原王寿	—	—	—
神経内科	10:00-12:00	—	渡邊聖樹 (第4週)	—	—	—	—
健診センター	午前	上村晋一 米満候宏	大熊利忠	生野俊治	生野俊治	大熊利忠	—

【受付時間】 午前 8:30 ~ 11:30 午後 1:30 ~ 5:00 【診療時間】 午前 9:00 ~ 12:30 午後 3:00 ~ 5:30



各部署からのごあいさつ

リハビリを通して 地域を元気に!

【介護副主任 郷良民】

通所リハビリテーションセンター「すがる」は、平成14年9月17日に利用者の方々の健康維持と介護予防を目的に事業を開始しました。今年で16年目の年になります。これからも地域の皆様方の健康維持やリハビリを通して元気をお届けできるよう、職員一同がんばっていきます。



通所リハビリ
テーションセンター
すがる
SUGARU

～ギアチェンジ～

盛んだった震災前の 阿蘇立野病院に!

今年の夏は、猛暑であったばかりか大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号、そして北海道地震とまさしく災害列島の様相を呈していました。全国の被害者の方々には心よりご冥福とお見舞いを申し上げます。当地阿蘇でも熊本地震から2年半が経とうとしており、新しい阿蘇大橋や二重の峠トンネルの工事も有り難いことにペースを落とすことなく急ピッチで進んでいます。当院も昨年(平成29年)8月27日の長陽大橋開通に伴い、現地での外来診療を完全再開した後、9月11日に病棟業務を再開し救急患者を受け入れるようになった1年となります。復興支援の名のもとでたくさんの方々の善意と厚意を頂いてここまで復旧することが出来ました。心から感謝申し上げたいと思います。さて、今号のたての日和の表題はギアチェンジとしました。当院では昨年末をもって病棟の建造物の復旧はある程度終了しましたが、私を含む職員の方々の心の復旧の足並みが揃ったとは

言い難く、もう少し時間を必要としました。そのような中で冒頭に記したように全国的に災害が起こり、その度に自らの胆が次第に据わってくる感覚を感じるようになりました。さらに9月半ばからの電子カルテ導入で職員が一所懸命になっている姿に、「盛んだった震災前の阿蘇立野病院に戻す」、すなわち復興への元氣・骨力が沸々と湧いてきました。復旧から復興へ、これがギアチェンジということなのです。9月からは32床から43床へと増床し、前述のように10年来の計画であった電子カルテもいよいよ導入されます。88床に戻す鍵がこの電子カルテに伴う業務改革にあると私は確信しています。地震により病院経営は火の車ですが、私たちの心は「燈となつて地域医療に邁進し、理念であるぬくもりと安心の医療を提供する病院として一隅を照らしていきます。」



理事長・院長
上村 晋一

安心・安全な 医療を。

【薬剤課長 桑谷友子】

電子カルテでの業務が開始となりました。複数の病院からの持参薬も含めて、薬の飲み合わせ(併用禁忌や重複投与)のチェックを行い、検査値を見ながら腎・肝機能に影響を及ぼす薬に注意して薬剤をしています。退院後も安心して服薬していただけるような説明を目指しています。



薬剤課 Drug Section



稼働病床を増床。

熊本地震から休止していた病棟は、昨年9月に一部再開をしました。それから徐々に患者さんや従事するスタッフも増えましたので、今年9月から増床し計43床になりました。また、43床全てが「地域包括ケア病床」となります。「地域包括ケア病床」とは、急性期医療を経過した患者さんや在宅・施設等において療養されている患者さんを受入れ、概ね60日以内に在宅復帰(退院)を支援することが役割です。これまで当院が担ってきた役割と大きく変わりはございませんので、入院のご相談は「地域連携室」へお問い合わせください。

医事課長 日隈 耕平



電子カルテを導入。

平成30年9月18日(火)より、電子カルテによる診療を開始しました。電子カルテ導入により、各部門間での情報共有化、業務効率化が促進され、待ち時間短縮、転記ミス等のヒューマンエラー防止、三点認証による投薬ミス・患者取り違え等医療事故防止が期待できます。導入後しばらくは、多少ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、電子カルテ化を機に、震災後の復旧モードから、復興モードへギアチェンジし、更に進化した質の高い「ぬくもりと安心の医療」を、地域の皆様にご提供できるよう努めていきたいと思っております。

医療技術局長 田中 幸成



介護相談・ 支援の再開。

【介護支援専門員 古屋美幸】

熊本地震後、業務を休止していましたが今年5月より再開しています。居宅介護支援事業所では、介護についての相談・介護サービス利用調整などを行います。介護支援専門員(ケアマネージャー)が要介護状態になっても安心して在宅生活を送れるよう支援をさせていただきます。



阿蘇立野病院には、 たての TATENO

介護についての相談窓口

- 「介護の事で困りてはありますか?」
- 「高齢のご両親のことが心配ではありませんか?」
- 「もの忘れはひどくなっていませんか?」
- 「退院後の生活に不安はありませんか?」
- 「介護に疲れていませんか?」

親の介護や自分の老後生活の不安や悩みは一人で抱え込まずに、まずは、お気軽にご相談ください。

相談・利用 無料

居宅介護支援事業所 「たての」 (阿蘇立野病院内)
電話 0967-68-0111 (受付にお尋ねください)
担当 古屋 美幸 (介護支援専門員・認知症ケア専門士)